

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902140		
法人名	有限会社 こもれ陽		
事業所名	グループホーム こもれ陽		
所在地	旭川市春光台3条9丁目2-18		
自己評価作成日	平成28年11月14日	評価結果市町村受理日	平成28年12月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0172902140-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成28年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

春光台の高台にある福祉村の近くに立地し、静かで穏やかな自然環境に囲まれながら、日々穏やかに生活できるよう支援を行っている。意思決定の場を大切にしながら、職員一人一人が利用者個人への対応を考え、チームケアを提供している。寄り添う介護を基本として、傾聴・受容に努め、天気の良い日には散歩やドライブなど、可能な限り家庭の延長線を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<戸外に出かける支援>
一人ひとりのその日の希望に沿って、散歩や馴染みの美容院訪問、幼稚園や保育園のお遊戯会や運動会見物などの支援に努めていたり、普段は行けないような場所でも、家族と一緒に外泊やお墓参りに出かけられるように支援したり、地域包括支援センターと協力してストレッチ&ウォーキングサークルで地域の人々との交流、比布や鷹栖方面等へのドライブなど戸外に出かけられるよう支援している。

<地域の人々との交流>
地元中学校生徒に向けた「認知症サポーター養成講座」開催に協力したり、三味線やフラダンス、生け花等の地元ボランティアや大学生の協力、近隣住民に参加を呼びかけて納涼祭や収穫祭を開催するなど地元の人々との交流に取り組んでいる。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)		1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 利用者の2/3くらいが			○	2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある			○	2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが			○	2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は施設内の目立つところに掲示し、いつでも確認ができるようにしたり、職員会議等で確認したりしている。 また、ケア理念の構築によって、目標を定めチームケアの実践に繋げている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を職員会議等を通じて話し合い、その理念を職員間で共有し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りに参加したり、町内を散歩したり、保育園の運動会等の見学など、交流の機会を確保するようにしている。収穫祭や納涼祭には地域の方を招いて交流を図っている。	中学校生徒に向けた「認知症サポーター養成講座」開催、三味線やフラダンス、生け花等の地元ボランティアや大学生の協力、近隣住民に参加を呼びかけて納涼祭や収穫祭を開催するなど地元の人々と交流している。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターキャラバン活動に参加し、啓蒙活動に努めることとしている。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の開催を通じて、年内の行事や運営状況を報告させていただいている。委員からの質問や意見を基に運営の向上に向けて取り組んでいる。	定期的に運営推進会議を開催して、地域の実情や事業所の取り組み状況等の具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点や相談等があれば、担当課を訪れて助言をいただくことを継続している。	市担当者や包括支援センターとは、日常業務を通じて報告や情報交換、助言等を得ながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は緊急やむを得ない場合を除き、行わない方針は変わっていない。	職員会議や内部研修等の開催で指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加や職員会議においての学習の機会を確保するなど、学ぶ機会を作ってきた。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議において、資料を配布するなどし、学ぶ機会を作ってきた。外部研修の機会等があれば積極的に推進していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重ねてご説明し、理解をいただいている。不明な点はいつでも問い合わせいただく姿勢を継続している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの要望などには内容の確認を行い、対応できることは対応させていただくことを続けている。	家族等の来訪時に近況や日常生活の様子など話し合う機会を設けたり、苦情や意見等を書いて表せるように苦情受付箱を玄関に設置している。また、そこでの意見等を職員間で話し合う機会を設け、運営に反映できるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要に応じて面談を行い、職員の言い出しづらい気持ちの把握に努めたり、日頃より職員の声に耳を傾けるようにしています。	親睦会や忘年会、新年会の開催、職員会議や個人面談の実施等で意見や提案を聞く機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談や日々の関わりを通して、個々人の状況を把握したり、一時金に反映したりしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修への参加を始め、各種外部研修へ参加を促し、学びを深める機会を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	施設間交流の一環として、1泊旅行研修を実施している。相互訪問をした結果、学びが深まったと参加職員より感想が上がっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	寄り添う介護を基本とし、傾聴や同意など、精神的なケアへの配慮を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望や意見には真摯に耳を傾け、一緒に解決していく姿勢をもって対応を続けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者及びご家族の話を十分に傾聴し、本人や家族の希望が理解できるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事やおやつを共に食べ、一緒に掃除をし、笑ったり、遊んだりといった活動することで暮らしを共にする意識づけを行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告や面会時の情報提供などを行いながら、家族とも情報を共有し、共に本人を支えていく関係づくりの一環としている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お盆や正月など、家族関係の継続となるよう対応しているし、馴染みになった美容院の利用やドライブを通して、旭川の町中の様子を見学したりしている。	馴染みの美容室訪問、家族と一緒にの外泊やお墓参り等で馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆でレクリエーションをしたり、食事や体操をしたり、相互に関わりを持ちながら、生活をしていただけるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も施設運営にご協力いただいたり、退居して終わりではなく、必要に応じて相談にのるなど関わりを継続している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人らしく生活が続けられるよう、情報を共有したりしながら、支援に努めている。	一人ひとりの意向や要望等をアセスメントや生活歴を把握し、職員間で共有して、本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の確認を行い、住みよい環境・居住スペース作りに取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	必要以上のケアは提供せず、出来ることは自分で行っていただくよう、声掛け・見守りを行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人にとって一番必要のある支援を検討し、処遇改善に努めている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人・家族等の意向や要望、職員会議やモニタリングを通じて職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。また、状態変化時には、都度見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化や気づきについては、連絡ノートなどを活用し、情報の共有が図れるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り、個人のニーズに沿った対応ができるようにしている。家族からの希望も同様に対応を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	幼稚園行事への参加、地域行事への参加、ドライブ、散歩などを通じて、地域資源との共生を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を聞き、かかりつけ医を含め、必要な専門医受診を心掛けている。	日常の健康管理や通院等への対応で適切な医療を受けられるように支援している。また、受診は、本人・家族の納得が得られたかかかりつけ医となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の出来事・変化についてはメモを残したり、口頭で伝えたりしながら、医療面での指示をいただくようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の検討については、対象者発生時には細かく行い、面会も随時行い、安心して治療に臨めるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	病状や状態の変化については、その都度ご家族へ連絡し、家族・施設・医師が情報を共有できるように心掛けている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族と話し合い、事業所でできることを十分に説明しながら指針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は、施設長、主治医への連絡マニュアルを使用し、素早い対応を心掛けている。事故についても同様だが、予防することが第一と考え、支援している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、緊急の連絡網には、地域の有志の名前を入れさせていただき、有事の際はご協力いただける体制作りをしている。	緊急時の連絡網に地域の人々に協力を得て体制を築いている。また、年2回地域の人々の協力を得て火災避難訓練を実施して、緊急時に備えている。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや接遇の面で気を付けており、程よい親しみをもちながら対応している。	職員会議や接遇等の内部研修参加で、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように職員間で周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思決定の機会を確保できるような声掛けに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	各個人の生活ペースに合わせて、支援している。食事時間の個別化、外出の対応などできる範囲内で支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みを優先し、また選択できるような声掛けに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしのひげ取りや配膳準備または片付けなど状態に応じてお願いをしている。	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、食事の準備や後片付けなどを職員と一緒にやって行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の量のチェックを行うほか、定期的な往診の採血により、栄養状態を調べ、医師の指示の下、塩分の調節や間食の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行い、磨き残しや支援が必要な方への介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の状態を見ながら、トイレ誘導を行っている。	一人ひとりの力や排泄のパターンを把握して、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や規則正しい生活を送ることで、便秘予防の一環としている。水分の摂取量にも注意している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	入浴は週2回行う。その他随時シャワー浴等の対応も行っている。	週2回の入浴を目安に一人ひとりの希望やタイミングに合わせて支援をしている。また、拒否の強い本人にも個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡の時間や、夜間帯の消灯時間も状況に合わせて変化させながら対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常勤職員が、医師・薬剤師の指示の下、管理している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のリハビリ体操、外出(散歩など)、映画鑑賞、塗り絵、ちぎり絵、パズルなどで気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏季は散歩や個別の外出を行っている。家族の都合もあるが、ご家族と共に外泊や墓参りに出かけることもある。	一人ひとりのその日の希望に沿って、散歩や馴染みの美容院訪問、幼稚園や保育園のお遊戯会や運動会見物などの支援に努めていたり、普段は行けないような場所でも、家族と一緒に外泊やお墓参り、比布や鷹栖方面等へのドライブなど外出支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に外出し、好みの物を選び購入することで喜ばれている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話を掛けたり、家族からの電話に対応したりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い空間作りを目指している。家庭的な雰囲気でも過ごせる空間作りを心掛けている。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、共用空間には、季節毎の飾りつけや行事参加の写真が飾られるなど生活感や季節感を採り入れて、本人が居心地よく暮らせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで話をしながらテレビを見たり、一緒に遊んだり、それぞれ自由に生活をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や調度品など限りあるスペースにおけるものは持ち込んでいただいている。	居室には、馴染みの家具や仏壇、調度品等が持ち込まれて本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いすが通れるスペースや、手すりの設置、テレビ前には大きめのソファを置いている。建物内の移動は自由に、職員は見守りを行うようにしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム こもれ陽
作成日: 平成28年12月26日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に 要する期間
1	12	重度化及びターミナルケアについて、指針等の共有は行っているが、対応に至った経緯はまだなく、実践したことがない。	研修会や学習会を通じて、ターミナルケアとは何か、自分たちに出来ることは何かを学び、実践に繋がられるようにしたい。	研修会への参加、自己学習の機会を作る。	12か月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。
注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。